

令和7年度 加古川市立神野小学校 学校評価

1 教育目標 「自ら学ぶところ豊かな神野っ子の育成 ～夢が語り合える学校～」

2 基本方針

- ・よく考える子 ……学びの楽しさやわかる喜びを体感し、自ら考え表現する子ども
- ・助け合う子 ……互いに認め合い、励まし合う 思いやりのある子ども
- ・たくましい子 ……心身ともに健康で、たくましい気力と実践力を備えた子ども

3 指導目標

- ・「個別最適な学び」と「協同的な学び」の一体的な充実による「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組の充実
- ・命や心を大切に教育
- ・運動習慣・食育習慣等、自らの健康を意識して行動する力の育成

評価基準

A:できている B:だいたいできている C:あまりできていない D:できていない E:わからない

重点目標	評価項目	達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ（関係者評価）	達成状況
よく考える子	<ul style="list-style-type: none"> ・「できる学力」となる基礎・基本の定着を図るための継続的な指導 ・協同的探究学習を核とした「わかる学力」の授業実践 ・一人一台端末を効果的に活用した学習活動の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習等を活用し、各学年の重点指導すべき基礎学力について、系統的に指導する。 ・単元計画や課題の設定に関する研究を引き続き推進する。 ・デジタルドリルの活用や、教材やアプリの活用についての研修の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の学力の定着と、協同的探究学習の取組をよく実践されていることが伝わり、頭が下がる。児童の状態を職員間で共有することや、次学年への引継ぎを大事にされていることもすばらしい。子どもを揺り動かしたところで課題設定するなど、探究への力強さが一層増すような工夫を期待する。 ・1～6年生まで、学習者用端末をよく使用し、基礎学力の定着にも努めている。 ・基礎学力向上の取組は理解できるが、思考力育成との関連をより明確にする必要がある。自ら考え表現する力の育成については、さらなる工夫が求められる。 	B
たくましい子	<ul style="list-style-type: none"> ・運動習慣の定着と体力の向上に向けた工夫・改善 ・児童の健康の基礎を培う健康教育及び食育の充実 ・生命の尊重を基盤にした安全・安心な学校づくりの推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「神野っ子スポーツデー」の継続と、異学年交流を取り入れる等、さらなる充実を図る。 ・給食指導に加え、栄養教諭による食育授業の提案等、食育の充実と啓発に努める。 ・日常的な安全教育により、児童の危機回避能力を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段使えない用具を使つての「神野っ子スポーツデー」の取組や、休み時間にクラス全員で遊んだり、先生と一緒に遊ぶことで、子どもの笑顔が増えると思う。「神野っ子スポーツデー」や異学年交流の実践を継続し、運動の生活化が一層図れるよう期待する。 ・体験活動や食育、安全教育の取組は評価できる。主体的に行動できる力のさらなる育成を期待する。 	A
教師力	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学ぶ意欲の育成をめざした指導法の工夫及び改善 ・教職員の専門性や実践的指導力を高める研修の充実 ・児童一人一人の教育的ニーズの把握と支援のあり方を追求した特別支援教育の充実 ・アセスや教育相談等を活用した児童の内面に寄り添った指導や信頼関係の構築 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・到達目標を明確にし、児童が見通しをもって学習に臨む習慣をつける。 ・校外研修等で得た学びを活かした校内研修の充実を図る。 ・特別支援教育に関する実践力を高めるための研修を継続的に実施するとともに、保護者の理解の啓発に努める。 ・アセスの分析や活用に関する研修を実施し、より深い児童理解に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修やアセスをして終わりではなく、研修成果の共有、アセスの結果の分析、対策については、ぜひ取組を進めてほしい。 ・一人ひとりの探究が、力強い集団解決につながる授業構成になるよう期待する。 ・研修と相互の連携で、向上に努められたい。 ・児童にわかりやすく丁寧に、楽しく教えていると思う。 	A
家庭・地域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・地域や保護者に対する、ホームページや学校だより、学年だより等での教育活動の積極的な発信 ・健やかな児童の育成に向けた家庭との連携 ・地域の人材や学校の特色を生かした体験活動の推進 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを定期的に更新し、最新の情報を積極的に発信する。 ・あいさつ等、保護者と連携した活動の見える化を図る。 ・地域の人材を有効活用した体験活動に継続して取り組んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や学年等からの情報発信、PTAや地域との連携活動など、よく取り組まれていると思う。 ・地域との協働体制は一定の構築がされており、安定しているので、A評価は妥当と考える。情報発信のさらなる充実や、地域とお互方向の関わりを深化による連携の質の向上が期待される。 ・あいさつや行事、先生と子どもとの信頼関係づくりを通して、学校、家庭、地域、そして先生、子ども、保護者の良好な関係づくりを期待する。 	A
教職員の働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間の適正化に向けて、業務の合理化及び精選 ・定時退勤の完全実施及び勤務時間の縮減 	C	<ul style="list-style-type: none"> ・業務を整理し、「スクリレ」や生成AI等を有効活用し、ペーパーレス化、校務のDX化を推進する。 ・面談等の時刻を勤務時間内に設定する等、超過勤務時間の削減に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもファーストの観点で、先生方が心に余裕をもてる働き方改革を進めたいと思う。 ・改革によく努力されている。教員数増など、国レベルの動きが大事だと思う。 ・業務に課題がありすぎるため、自己評価が厳しくなっているのだと思われる。 ・業務改善は進められているが、学校、保護者双方の負担バランスに配慮した取組が求められると考える。 	B